

「憲法9条にノーベル平和賞を」 組織内議員・たしろかおる参議院議員 日本外国特派員協会で記者会見に臨む！



記者会見に臨むたしろ参議院議員（右から2番目）

たしろかおる参議院議員は7月22日15時より、日本外国特派員協会の主催する記者会見に臨みました。4名の国会議員とともに7月1日に安倍政権が行った集団的自衛権の行使容認の閣議決定について、「憲法前文や憲法9条をはじめとする種々の法令に反するもので無効である」と訴えました。

これに先立ち、5月22日にたしろ参議院議員は超党派議員60名の署名とともに憲法第9条のノーベル平和賞の授与を陳情する文書授与誓願をノーベル平和委員会へ提出しています。（切り抜き参照）

たしろ参議院議員は「戦争のできる国」に突き進んでいる安倍政権を許さず、憲法第9条を守り、平和で安心して暮らせる社会の実現のために行動しています。平和・人権・民主主義を守るために国政で奮闘する組織内議員・たしろかおる参議院議員を職場や地域から応援しよう！



超党派議員「9条にノーベル賞を」

60人選考委宛て陳情書

「憲法九条が（解釈改憲の）危機にひんする今、ノーベル賞に選ばれば、一定の問題提起ができるのではないか」と語った。

憲法九条のノーベル平和賞受賞を目指す動きは、神奈川県座間市の主婦の活動がきっかけ。市民による実行委員会が昨年発足し、推薦資格のある大学教授らの賛同とともに、約二万五千名分の署名をノーベル賞委員会に提出した。受賞者は十月に決まる。

2014.5.23 東京
憲法九条が二〇一四年のノーベル平和賞候補として同賞委員会に受理されたのを受けて、超党派の国会議員有志が二十二日、東京都内のノルウェー大使館を訪れ、委員会宛てに受賞を陳情する文書を提出した。

菅直人元首相をはじめ、自民、民主、維新、共産、社民、生活、無所属の衆参議員六十人が賛同者に名を連ねた。提出後、国会内で記者会見した民主党の田城郁参院議員は